磐城春秋

第三十四號

發行所　磐城春秋社
平市田町六八
電話四八番
編輯發行兼印刷人　高木稲水
印刷所　平活版所
(毎週土曜發行)

【定價一部十五錢】

# 平市の復興狀況展望

## 花々しい復興祭は三年後か

前後三回の戰災に見舞はれた平市の復興狀況はどうなつてゐるか。市役所には終戰後復興課が新設せられ、縣では最近復興事務所を警察署前の土木監督所に設置し、鋭意復興計畫をすすめてゐたが愈々廿四日には第三回戰災地跡に起工式を擧行、基礎工事にとりかかる事になつた。資力勞力食糧等のあらゆる困難を克服して九月二日迄に完成した建築物は二八五戸、未完成廿三戸で七七五戸の戰災による燒失家屋の約半數が建つてゐる。市復興課では住宅難に惱む引揚者等の實狀に鑑み五色町に住宅營團の手で二百坪のアパート三棟を建築中であり、その他公園下に十二坪の家屋四十戸を建てようといふ計畫を持つてゐるが土地問題でゆき惱んでゐる。大きな建物としては紺屋町の民衆劇場、白銀町の世界館等が棟上げとなり開館を急いでゐる。磐女に間借りしてゐる裁判所は堀江工業が目下修理を急いでゐるから早ければ十月中には移轉が可能であるといはれ、勤勞署は訓盲院跡に目下工事中、稅務署の本建築は本年度の豫算がとれなかつたので來年以降となる平第一國民學校は百三十八万圓でさしあたり一棟だけ建築、中等學校では平工業が燒跡にバラック二棟を建築、一部は磐中で授業をやつてゐるがこれも本建築は來年になるらしい。公會堂を使用してゐる平市役所は廿三年にならなければ建築出來ないとあつて、官衙廳等の大きい建物は何れも明年以後となる。結局華々しい平市の復興祭は昭和廿四年あたりになるらしい

## スポーツニュース

### 平クラブ

**東北六縣大會に出場！**

◇福島縣軟式野球大會は十六、七の兩日郡山市で開催平クラブ堂々日東紡、郡山專賣局を破り、來る二十二日福島市で開かれる東北六縣大會に出場する

◇磐城、平男女卓球大會は二十二日內鄕淺野會館で行はれる

◇讀賣新聞社主催第四回縣軟式野球大會平市豫選會は二十八、九の兩日平工球場にて開催

◇國民體育大會男子中等學校福島縣豫選大會は二十九日郡山市で開催。濱通り代表は左記の通り決定

▽陸上競技　平工、磐中
▽庭球　磐中二チーム相商、平商
▽卓球　相中、双中
▽體操　磐中
▽排球　平商
▽籠球　磐中
▽相撲　相中

本社新設電話四八番

書畫骨董
貴金屬寶石　高價買入
時計衣類其の他
平市南町平館西隣
中央會館

## 人物紹介 (26)

# 平の一二文化人

## 高瀨勝男君と中柴光泰君

平の文化人……文化人とは何ぞやといふことになると定義は面倒だが……兎に角平の文化人は自稱他稱新舊男女、十指を屈するに餘あるであらう。しかしどの角度から見ても逸する譯に行かぬ人物は中柴光泰君と高瀨勝男君である。何故ならば中柴君は中央で出版した數種の著書を持ち、高瀨君は二科展に入選五回の畫伯だからである しかも面白い事にはこの二人は平第一小學校時代からの同窓竹馬の友であり、このクラスからはその他にも小說家の荒木魏君や雜誌「世界評論」の主幹吉田禮次郎君のやうな著名な文化人が出てゐることである。中柴君は磐中から青山學院に學びかつて父が國語の教員として勤務したことがあり自分の母校　ある磐中に英語の先生として教壇に立ち現在に到つてゐる短腦溫和孜々として專門の英文學を研究、牛徒に敎へる傍「アメリカ文學史」「レブランドとその時代」等の著述をなし、最近は「サミュエル・バトラーの覺書抄」を譯出公刊してゐる。また鄕土出身の歌人天田愚庵の研究家でありその資料を蒐集近く愚庵の傳記出版の計畫もあると聞いてゐる。なほ平に緣の深い詩人山村暮鳥に就いても興趣を持ち、高瀨君と共編でその詩集「春の海の歌」を出版してゐる。田舍の中學教師としては稀らしく教場と職員室以外の實のある仕事をやつてゐるといへる。高瀨君は磐中を中退、獨學で西洋畫、日本畫を研究、獨自の境地を拓き、平ではその特異の風貌と飄々乎たる行動とに依つて親まれ愛く顏が覺れてゐり、もし高瀨勝男の名を知らぬ者があるとすればまだ本當の平人ではないといつても差し支へない程である。一面詩も作りかつて草野心平、芳野混沌、中野勇雄君等と雜誌「無軌道」を發行文學運動を起したこともありヤ文學運動にも參加所謂赤の洗禮も受けてゐる。文協の發足や民主人民聯盟の結成等の如き文化運動には必ず一枚加はつて各方面との連絡の役割を演じてゐる。年四十にして家をなさぬ点でも有名だつたが、三年前好配遇を得て愛兒を儲けたが最近疫痢でなくしたのは氣の毒である。家業の活版業が戰時中整理され、目下日本醫療團書記として泉に汽車で往復してゐる

# 巷間の疑念を一掃せよ

## 山崎與三郎氏に問ふ

平市　永山生勇吉

平商工會議所の設立に當りその發展を念願し貴下が設立發起委員長なるが故に茲に公然貴下の意見を問ふ次第である。

貴下は先に官僚統制經濟に入るや、イチ早く平商業組合を發起設立し、我々小商業者は時局の波に溺れまいとして續々と組合へ出資加入した

縣で生必物資統制會を作るや直ちに組合を統制會に早替りして今日に及んだが、我々は此の間二回、欠損補塡金を徵收され、然も今以て一度も收支の決算報告を受けない

次は商工經濟會である。私はその設立より今日迄この經濟會に關する何等の通知も報告も受けた覺えがない恐らく小さい商工業者は皆さうだらうと思ふ。然し會費は二回徵收された。私は第二回の會費は拂はないが……。

この際貴下が中小商工業大衆の支持なくして三度「平商工會議所」の設立發起委員長となつて果して民主的な會議所の發展を期待し得るや否や

趣意書に並べられた設立發起委員の顏觸れは、平市長、議長を初め社長、理事長、支部長と實に堂々たる陣立てであるが、餘りに堂々として居つて小さな商工業者に依つて運營される民主的機關といふ感じが抹殺されはしないか本當に商工業者大衆の民主的機關とする趣意ならば、戰時中の舊指導者はその實蹟を省りみて、こゝらで一度足を洗つて新進氣鋭の青年に席を讓つて貴下が又ぞろ會頭にでもなはどうですか

らうとしてゐるとするならば、それは會議所の發展を期する上に於て大きな時代不認識であると思ふ

若き青年は終戰後の困難な事態を克服するのは、我々の双肩にあると切角意氣込んでゐる。過去に於て再三欠損の實蹟のみ繰返した責任者が戰後の經濟再建に寄與しようと云ふても、心から信頼することは出來まい

磐城春秋紙にもあつた樣に舊指導者の御一考を煩したい。どうしても新進の者に讓る氣になれないといふならば、せめて商業組合等でその損益收支を詳細公開して、巷間の疑念を一掃し大衆の信頼を獲得して後當るべきではないかと思ふ。民主的機關を商工業者に提供し、共々に商工業の再建と發展とに歩調を揃へて邁進しようとするのが、新商工會議所設立の根本の狙ひであるが故に、敢て茲に貴見を問ふ次第である

## 文化團体連絡會

磐城文化協會の提案による石城郡下の各文化團体の連絡會は明廿二日午後一時から一丁目の石城產婆學校で行はれる。參加團體數は未定であるが當日は主催者磐城文協が開催の主旨を說明各文化團体の活動狀況の報告の後連絡機關の設置合同事業の計畫等を協議する

開業御挨拶

前略　私儀此の度無事復員致しまして左記に於て再び診療に從事致して居ります何卒舊に倍する御支援を御願致します

右不取敢紙上を以て御挨拶申上げます

昭和二十一年九月

小兒科
內科　志賀醫院
志賀政光
平市南町
電話一六二番

## 文協の文化講座

都合に依り延期中であつた磐城文協の第三回文化講座は廿八、廿九の兩日午後六時半から九時迄石城產婆學校で開催される。會費金貳圓。講座は鄕土史猪股磐中敎諭、文藝富澤有爲男氏、又は草野心平氏、時事解說仙波讀賣新聞通信部主任、經濟山崎忠兵衛氏(交渉中)

## 貝殼追放

△近頃韓非子といふ本を拾ひ讀みして見たら次のやうな文句に遭遇した。「魯の國の哀公といふ人物はくだらぬ人物である。然るに國王として政治を執り國內の人民は皆臣として服從してゐた。孔子は人格學問の点では當代の立派な人物であつたがその哀公の臣となつてつかへてゐた。孔子は決して哀公の人格に服したのではない。國王といふその勢に服したのである。仁とか義とかを貴んで孔子に服したのは廣い國內でたつた七十人のかれの弟子だけであつたに過ぎぬ」

△現在政治的解決といふやうな場合の政治とは結局勢といふことだ勢とは何ぞやといふと金を持つてゐるといふ事である

△金持の前には大抵の人物が一應は頭を下げざるを得ない。蔭の方で何と惡口をいはうと金持の前に出ればぺこ〳〵するのだ

△市會とか縣會とか國會とかに立候補する位の人物はその金を相應に持つた人達だ。彼等の中から好い政治を求めようとする事は河原の砂利の中から玉を探し出さうとするに等しい

△金持が自分の前に頭を下げる人物を見て自分が偉いからだと思つたらそも〳〵間違である。その人物に服するにあらずその金力といふ勢に服してゐるのである

△日本の從來の敎育は韓非子の攻擊してゐる儒敎の精神を中心としてゐた。即ち國民に孔子たれと敎へて來た。然るに世の中は韓非子の指摘してゐるやうに金を持つてゐる者が結局はすべてを支配する形になつてゐる。日本國民が滔々として口と腹との違つた僞善者となつて行つたことは何の不思議があらう

△財閥の解体、財產稅、農地調整法の實施は勢の解体であり、眞の赤裸々の人間同志の交渉となる所に深い意義がある。世の中の矛盾がなくなる所に敎育的意義も生れてくる

# 文藝

投稿歓迎
可紙上匿名

## 大字上小川

―讀書會出開帳の記―

内木宗八

九月十三日（金曜）曇、數日前椎名勇雄氏から上小川の白井さん宅で讀書會の集りをやるからやばいて見なんしよと云ふ勸誘に應じ、幸ひ近處に往診を頼まれて居た患者もあるので、半分仕事、半分風流心から往診鞄をぶらさげて磐越東線のホームに行つて見ると居ろわ居ろわ、椎名リーダー以下十六名、こんなに行つて大丈夫かいときいたら、誰かが白井さんのお邸は廣いから大丈夫だよと力づける。何にしても十三日金曜の最後の晩餐に出向くには一寸使徒が多すぎるし賑やかすぎる。然し驛のホームはやるのかやらないのか知らないが、ゼネスト二日前の些か暗澹たる殉教的空氣である諸氏の風俗も、兵隊ズボンに、頭陀袋等先づ大体世相的である。轟轟三十分、午後四時小川郷驛につく。それから徒歩。田圃の向ふの畦道を黒服の青年が來る。こちらでやーいと云つて手を擧げると向ふでもおーいと云つて手を振る。ゴロちやんだと椎名氏が懷しさうに云ふ。やぱり今日の出開帳に地元から參加する使徒の一人であるらしい。バスの終点の所で私は一寸諸氏に御免蒙つて、近くの患家へ廻つたが、患者はどこかへ出掛けたとかで商賣にならぬ。元々半分往診だから仕方がない。すぐ引返してもとの縣道へ出、反對側の小道を夏井川の方に向つてだらだら坂を下り、木橋を渡り畠の間の小道を少々行つたところに、こんもりした杉木立の中に白井邸が靜まつて居る。十數人も集つて居るにしては話聲もきこえず馬鹿に靜かだなと思ひながら邸内に入ると丁度使徒達は御主人一郎さんの案内で分別臭さうな顔をして、お庭を拜見逍遥して居る處であつた。微塵も止めず掃き清められた庭園には白萩が咲きこぼれ、樹間ほの暗き處に二三基の石燈籠が落ち着いた配置を見せて居る。廣大な泉水には緋鯉、眞鯉が悠然と遊び邸外の程近きところから水車がこつこん〳〵と夢幻的な音をひゞかせて居る。まことに靜中の動、動中の靜幽邃閑雅の一語につきる。兵隊ズボンやぶた靴も流石に抜き足さし足のやうである。池の鯉に無慮三貫目もあらうかと思はれるのがゐて誰かメツエツペリンと名をつけた。すつと前私が鯉釣りに熱中して近在の溜池をあらし廻つて居た頃、浮木のかなたを餌にもつかず小商憎く悠々と游ぐ奴をツエツペリンと稱した仲間の釣師があつた。人の聯想は似たやうなものである。もつと昔昭和の始めの頃眞物のツエツペリン飛行船が世界周航の途日本に立ち寄つた事があつた。私は仙臺の研究室の屋上で、遙か南方の空遠く一本の葉卷よりももつと小さくゆつくりと西の方にすべつて行く飛行船を眺めて居た。所澤の飛行場に着陸する實況をラジオのアナウンサーが放送して居たが、盛にアンカーゲウオルヘンと繰り返して居た。今日本は戰終つて、國家の隆替變移の航路上アンカーゲウオルヘンの狀態にある。この次日本が碇をあげて出港する時は指導者はどこの港に指針を向けるであらう。依然として尖鋭な支点の上にたつ均衡勢力的國家群への仲間入りであらうか、將又人間叡智の所産であるところの理想主義的世界政府の一員としてであらうか。

玄關に入ると無暦莊の扁額がかゝつて居る。山中暦日なしの謂か然らば十三日の金曜も敢て意とするに足らぬことになる。暮色漸く迫つて庭中の燈籠にほんのりと燈が入る

これ等の白井邸庭中の感を何鳴宗匠は抜からずものにしたやうだが、その句はいづれ宗匠から發表がある筈である

やがて夕食となつて御主人から野菜料理の御接待をうけながら、握り飯や辯當箱を開く。諸氏いづれも相當に無理をして來たらしい食後愈々肝心の談話會の開帳となるのである。床の間には探幽の一幅の前に、時代は判らぬが一体の古色蒼然たる菩薩像が安置されてあり、鈿螺の經机や料紙箱が盛雅に電燈を反射して居る。これも宵貝ずりの金庫が次の間に豪華に輝いて居る。この頃から地元の有志がポツリ〳〵集つて來た。角刈筒袖にモンペと云ふ風態の御仁が物靜かに入つて來る。車中度々噂を耳にして來た天平さんである。詩人草野心平氏の令弟で、心平氏も出席の筈であつたが、生憎御不在ださうである。それから新妻氏同姓白井氏更に二三の白井さんの御縁者の方々、總勢二十數名が十畳、八畳の二間をぶち抜いて夫々の位置を占める。日はとつぷりと暮れて庭前は皆暗である。石燈籠も全体の輪廓をかくして、その四角い窓明りが丈がぽつかり暗中に浮び出る。大体斯樣な背景で白井二郎さんの洒脫な司會で談話會に入る。こゝでこの席上語られた諸氏の談話を詳しく御紹介するのが本來私のこの駄文の目的であつたのであるが、あまり前置が冗漫にすぎて、この紙面で私に與へられた狹いスペースでは最早肝心の談話を記錄する餘裕がない。甚だ殘念であるが、京都で陶工としてすでに一家をなして居られる新妻さんが製陶の手法と陶器觀賞の要領を實物について示説され、天平さんが藝術及藝術家の在り方に綜説的思索的な談話をされ、滿洲歸りの白井さんが田園文化について示唆に富んだ話をされ、ゴロちやんが映畫製作の經驗を語られ、更に平部隊の諸賢が夫々文學的或は趣味的香氣の高い説話を提供されたと云ふ事丈をかきとめて御免を蒙る

ピヘースト結論を急がう。一体藝術は思索と表現の二つの要素から成り立つと私は私なりに考へる体驗とか環境とかは結局思索の一部分だし、天分とか勉強とかは表現の範疇に屬する。ところで思索は夫自体藝術に於ける一個のザインであるが、表現は表現夫自身と夫れを觀賞したり讀んだりする相手との相對性によつて存在價値を生ずる。繪は只描いた丈では夫れを見る人がなければ繪畫的價値はないし、小説は只書いた丈では讀む人がなければ小説的價値はないかう云ふ云ひ方は決して私の獨斷ではない。武者小路實篤氏も文學にとつて一番いけないのは一人わかりである。他の人の心に通じないものは文學とはいへない。わざわざ原稿をかくのは他人に讀まれる爲で、他人の心にひゞかないものをかいたのでは書く理由がなくなると新文學の六月號で云つて居る、

こゝで一寸白井二郎さんについての私の印象を述べることを許されたい。白井さんが藝道の達人である事はかくれもない事實である昨年三月十日の平空襲の直後、私は私の診療室である人の病用で白井さんの訪問を受けた。要談後白井さんは十日の深夜の烈風の中をお子さんの病氣で南町の酒井博士を訪れられ、その門前でB29の來襲に遭はれたのださうであるがその時の烈風中に斷續するB29の爆音を獨特の發聲法で極めて印象的に眞似られた。同席の某氏もまいもんだなあと感嘆した程であつた。私式論法（稻水先生謂ふ所の）は前にもどつて、藝術の表現の相對性はそれ手が高い觀賞眼や素養をもつて居るか、或は何等の素養のない凸天野人であるかによつてちがふ。觀賞眼や素養のある人間を動かすことはある意味でやさしい。凸天野人に清純なる藝術的感動を與へるものこそ眞の藝術であると思ふ。觀賞や批評を意識しての作爲は即我であり、意識せざる世界にすぐれた影響を與へるものは大いなる無我である。かやうな境地が即ち天平さんが席上力説されたところの無我に徹したる藝術家の境地と相通ずるものではあるまいか。そして妖怪變化の出る場面の多い謠曲で鍛えられた白井二郎さんの巧まざる發聲法が、その道に何の素養もない私を慄然とさせたことそのやうなことが眞の藝術的表現であると敢て云ふのは、當夜の御歡待に對する白井さんへの御禮心からばかりではない。さんだ半可通な藝術論で恐縮である

席上新潮の最近號が廻覽され、それに草野心平さんの大字上小川と題する珠玉のやうな詩がのつて居る

八時半辭去。月は出たらしいが頭上に一圓の雨雲が、パラ〳〵と來る。婦人部隊に氣がねしつゝ小川郷驛さして急ぐ。駄句あり。

萩庭や未還の友を忘れじな

## お父さん

平第一初四　金成久子

うちの父さん、ほがらかよ
いつでも畠のさわぎです
どはんの前にはきつとです
お酒のむときやさくいです
ふら〳〵ダンスお上手よ
いつでも私にして見せる
ほんとに父さんほがらかよ

## 秋庭

渡邊何鳴

去る九月十三日上小川白井氏邸に招かれて

二つ筒の麓の里の柿の秋
上小川とふ山村の柿の秋
庭深く萩の徑を案内さる
水打つて閑庭塵をさゝめざる
秋川のながれをこゝに池となす
枝垂れて池塘の萩の散りそめず
萩暮れて石燈籠の灯りけり
集ひ來るひゞ皆親し萩の宿
詩を褒つ陶を讃へつ萩の宿
秋時雨あろじの情謝して辭す

ササキ●ホンヤ　電二八五番


農機具●大工具
其ノ他家庭金物類
常磐線湯本町
常磐物産株式會社
平賣店　平市田町銀座通り
四ツ倉賣店　四ツ倉驛前

外科　内科
金成醫院
外科　諸橋鐵彌
内科　松本源一
平市鎌田町八番　電二六

神谷工業株式會社原料
社長　神谷兼次郎
平市田町五六
電話　六五六　六六五

御手輕な御食事
食堂　米久
平市三丁目一番地

皆樣の足！
常磐交通自動車株式會社
社長　野崎滿藏
平市田町
電話　三四三番　四二三番

常磐炭礦株式會社
磐城礦業所
湯本町大字辰ノ口一
電話　平（八四〇・八四一番）　湯本（八四二番）三番

釜屋商店
平市五丁目
電話九番九九番

桑原計理事務所
計理士　桑原徹
稅務代理士
平市揚土　電話八一五番

蓄電池　發電機
マグネット船舶自動車
電機一般
久野電機工業所
平市二丁目九番地
電話平七二一番
振替東京一五一〇四番

新鮮な御總菜
小西食品店
平市銀座通り

レストラン
平會館
平市三丁目
電話六二四番

出張所新設御挨拶
今般當社に置きましては新に左記に出張所を設け事務を分掌致す事になりましたよろしく本社同樣御引立の程伏して願上げます
昭和二十一年九月
平市田町貳番地（電五二九）
日本巴布藥工業株式會社福島縣平出張所
鱗産業株式會社福島縣平出張所
出張所員駐在所販賣部
外交員募集

化濃症にタペシリン軟膏
タペシリン軟膏
ビタミンA
ビタミンC
ユベラ（ビタミンE）
強肝油球（AD）
Aカプセル（肝油球）
濕布劑900號　ネツシ
神經痛ネツシ
等々々

營業品目

皆樣の御協力に依りまして惡性傳染病も漸く下火になつて參りました。御互に健康に注意しませう。
「少年の町」役場
鈴木傳明
平市公會堂前
電話六〇三番

福島縣指定自動車整備主要工場
磐城自動車工業株式會社
平市正月町
電話三七〇　四九〇番

福島縣指定事業重點工場
平硝子製作所
平本工製作所
社長　佐藤幸太郎
專務取締役　足助重雄
本社　平市高田町二ノ
電七一・四五五・七七二
東京事務所　東京都芝區新橋二ノ三八（烏森ビル）
電（37）四八二二番
工場　電話　二九二・二三三　三八九・八三六・三五〇

カメラ高價買入マス
現像・焼付・引伸し
茂木カメラ店
平市三丁目